

戊酉
号共六册

十七年
十八年
二十五年
二十五年

戊戌
丑月九日
編纂

養浩堂日誌略

早稲田大学図書館

文書 27

B 5

5



三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三月 日 钱大俸 着	四月 日 日清 六回 日清	五月 日 清国 三使 如服 元已	六月 日 清国 平和 吉报 伊藤 高野 乃通 向	七月 日 日清 使臣 徐承 道 廿八 日大 使伊 藤	八月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	九月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	十月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	十一月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	十二月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向

钱大俸 着

日清六回日清

清国三使如服元已

清国平和吉报伊藤高野乃通向

日清使臣徐承道廿八日大使伊藤

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

二月十四日

二月十四日

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三月 日 钱大俸 着	四月 日 日清 六回 日清	五月 日 清国 三使 如服 元已	六月 日 清国 平和 吉报 伊藤 高野 乃通 向	七月 日 日清 使臣 徐承 道 廿八 日大 使伊 藤	八月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	九月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	十月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	十一月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向	十二月 日 日清 使臣 徐承 道 乃通 向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日清使臣徐承道乃通向

日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月	日月

七月十五日

明治六年 西曆一千八百七十三年

七月 清佛平和以後東洋形勢

英國軍艦朝鮮巨文島に在り

露國皇帝は六月廿四夜外務卿ニコルツク氏に海軍卿コックス

氏に海軍卿シマソフ氏及び武官長英國の巨文島

に在りし露國の濟州島に備へたる軍備を為すに

キノ要許に奏聞を致し、聖彼得堡に駐在する露國公使各

自ノ意見ヲ親ヒテ聞ヒタリ

獨逸伊三國聯合六月廿九日倫敦發電

モリニシテ新聞ハ獨逸伊三國が英國政府外交政策

太政官

基礎、因テ緊密、聯合ヲ然セリト云ヘシ一文、均載セリ
清皇太后北京天津間鉄道布設ノ經費案ヲ認可セリ
二日

横濱ヘテ三國聯合ニ詳論シテ、獨相ヒユルノ英國保守黨
ノ政治ヲ執リ満足シ三國聯合ヲ以テ英國外交政略ヲ助ケル
目的ニシテ露國之ニ挫折セシムル事、地ニ立ツルニ而テ被テ得ル

七日六日朝鮮釜山發

濟州島、露國軍艦ヲラベツテ、ミシノ二艘當港ニ經テ至リ

又英艦二艘、目下日島ニ及船ニ長シ

對馬ノ防備、今度陸軍省ニ同所ニ兵營ヲ設、鎮守

十八年

廿日莫系 土屋大佐、子ハ殿計リ、ケラテリ、經テ去ルニ并ニ
廿日出勤、長谷、長谷、山田、若沢、上野、入河、恒島、社
花火あり

廿日出勤、柳、清、吉井、七、防、祝、和、如、也、ん

廿日、日、電、上、野、入、河、高、崎、三、風、母、北、老、之、報、也、

廿日、出、勤、吉、井、日、出、出、島、有、所

紅葉館、亞、細、亞、協、會、一、山、七、十、勤

十日、出、勤、天、氣、高、崎、母、葬、式、ハ、了、

後、在、所、三、日、有、リ、中、保、以、恒、日、布

廿日、出、勤、吉、井、日、出、出、島、有、所

廿日、出、勤、航、前、ハ、リ

十言不果

十言言未行，抑格行

十言如物，玉川堂，去非，去矣，

十言法不情，七言行

五

醇親王慶郡王奕劻、李鴻章、善慶、
曾紀澤、五人

欽奉慈禧端佑康頤昭豫莊誠

宣太后懿旨前因海防兼顧事宜開

係軍大臣等各將所

見據陸續陳奏後經令軍機大

臣總理各國事務衙門王大臣會同

李鴻章等會議具奏並一併與議

醇親王、李鴻章、翁同龢、翁同龢、翁

同龢、翁同龢、翁同龢、翁同龢、翁

同龢、翁同龢、翁同龢、翁同龢、翁

同龢、翁同龢、翁同龢、翁同龢、翁

同龢、翁同龢、翁同龢、翁同龢、翁

身據勝陳康後制令軍機大臣總理各國事務衙門王大臣會同李鴻章等議具奏並一併與議醇親王等權統籌全局擬請先熟練此洋以師以為之倡此外各等次身與辦等之語酌籌洋全機宜勇確親王總理海軍事務節制調遣所有沿海水師並便處郡王奕劻大學士直隸總督李鴻章等內請理法正紅旗漢軍都統善慶兵部右侍郎翁同龢等幫因辦理現自此洋伊始即著李鴻章專司其事其應行創設籌議各事宜總之王大臣等詳慎規畫擬立章程奏明次當興辦欽此

十月十三日上諭

汪國新置海部衙門一名海部大臣擬任汪海士為水軍部副大臣

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a transcription or commentary on the printed text below. The text is written in a cursive style.

ノ公遣スルノ決定レ不日丸亀ノ兵士數百名ヲ討州ニ赴ル

巨文島 英國東洋艦隊ハ向キ、同島ヲ占有シテ以東

常ニ軍艦ヲ同島ニ碇泊セシメ砲ヲシテ築キ水雷火ヲ沈メ又長

崎及ヒ上海ニ砲臺艦ヲ以テ毎周一度々、積息ヲ相續

以テ非常ヲ期スルコト

軍艦九艘 ○アカメシ ○クレラハトラ ○サツフハイアー ○フハイアグラント ○

セフハル ○リンチット ○デアリジ ○ヘガサス ○ウバンテラレ

外ニ浪船并ヒ石炭船一二艘アリ

露國及獨逸、巡邏艦折、同島ニ來リテ伺覷

朝鮮 露國書記官、兵士二十人、率て京城に來り、是非
政府に催こ入し、兵制教師トスヘキ旨、外務部にて強ニルニテ
國士民及び各國使臣トモ之ヲ嫌忌スル、政府承諾難
ク此ヲ辭セリ、此事、穆仁德の露人ハ約束セト申ト、明
カニ知ル人氣忽チ穆仁德ト思ヒ、穆仁德名際ニ立六月二十日、
領事請ヒ支那兵ノ保護ヲ受ヘリ

七月八日上海及電

露國東洋艦隊司令官ハ本國政府ヨリ濟州島ヨリ退スヘシ
新聞全ク受テリ
右電報ハ昨十日發金佛字新聞ニシテモヤホンヲ掲載スル所

ニテ真偽孰レモ信難シト姑ク録ス

英國新嘉坡、守備ヲ一層嚴重ニセ、警備ヲ決シテリ
臺灣撤兵、六月十七日、スハ、氏書ヲ劉銘傳ニ致シ、
期ヲ撤兵セシ、劉氏ハ蘇蘭齋、劉帥臣、二軍門ヨリ名代トシテ
勅命ヲ達シ、御國軍艦ヲ如ク結ビ、ニテ、領事官ヨリ、
ニテ、吾等此ニ歸リ

露韓家約 或之ムルレシトシテ 東京滞在の時、年々、前年

見知り言 倣セトモ 淺事ニ非ス 去年六月、次執権李祖

淵 韓奎、張、兩、家、交、相、成、り、時、ムルレシトシテ、兩、家、

説、露、韓、結、朝、鮮、離、持、ル、大、切、也、リ、而、氏、之、リ、然、也、

即斐先達 (武官出身) 一リ密使、露、韓、聖、得、堡、二、邊、の、邊、

也、シ、加、し、テ、ラ、シ、ス、一、送、へ、去、年、以、來、政、府、の、内、命、ヲ、承、ケ、

人、ヲ、遣、シ、置、キ、細、小、の、消、息、ヲ、通、シ、長、レ、リ、露、韓、盟、約、の、全、朝、

鮮、人、才、極、別、和、密、の、事、ハ、無、シ、ヲ、シ、時、事、新、報、七、月、二、日、

浦、シ、ス、港、ノ、近、況、露、韓、盟、約、の、満、州、兵、一、隊、隊、増、口、レ、管

所^レ積^レ同^レ港^ニ中^ニ艦隊^{十二艘}置^キ非常^ニ備^フヘキ旨^ニ
了旨官督所達^案中^{ナリ}

七月ニテ福州^丸

弗^レ同^レ陸^兵之^レ為^レ灣^ヲ守^ル引^キ揚^ケ柴^根赴^キ東^洋
艦隊^{八隻}漢^水陸^江ニ^テ所^レ碇^白セリ

朝鮮^日件

七月ニテ^日使^館下^ニ回^言仁^川到^リ船^艦五^艘也

巨^島兵^領之^レ由^テ朝鮮^訓令^ニ于^テ也^一 子^印兵^一
川^拂之^レ由^テ也^一

モ^ルド^ウ 兵^者書^レ海^軍之^レ官^ニ于^テ也^一 川^連之^レ入^也
兵^者之^レ由^テ也^一 朝鮮^士民^ノ兵^者之^レ由^テ也^一

兵^者之^レ由^テ也^一 朝鮮^士民^ノ兵^者之^レ由^テ也^一
兵^者之^レ由^テ也^一 朝鮮^士民^ノ兵^者之^レ由^テ也^一

兵^者之^レ由^テ也^一 朝鮮^士民^ノ兵^者之^レ由^テ也^一
兵^者之^レ由^テ也^一 朝鮮^士民^ノ兵^者之^レ由^テ也^一

六年

三月二十七日伊藤全權大使同榎本公使并上議官伊東
鄭面書記官吳書記生至總理衙門慶郡王以下諸
大臣迎接我大臣贈清廷書

奉大臣克特派大使之任辦理日清交涉事宜蓋我
皇帝日夕顧念東洋大局思益固交誼本大臣職掌機務
密勿宮廷奉旨周旋期為敦和好籌商長計以宏
遠猷不敢或謬而非止於獨辦理朝鮮案件也朝鮮之事
其如何辦理仍可憑尋常吏際通法議商了案我
皇帝特簡干端揆歷程前來務欲誠信相孚庶幾將來
不致有燕越相視之弊蓋宇內大勢今古一變各國交際互

為消長我國與貴國此時東洋輔車不啻開誠相待
漸磨文明交介福祉總可以成東洋大局想貴王大臣
識高視遠必既有合符同節者矣乃如朝鮮我國待以
友邦厚以鄰誼助成其美非有他意亦貴政府所諒也至
上年朝鮮之變不幸致有日清交涉案件關兩國定議事
情非細惟貴政府留意大局不容秉公處辦暨商等善後
事宜以全永遠交誼奉大臣所深諒也奉大臣來京得與
貴王大臣晤叙略聲明使令所在以期相孚

明治八年四月三日

千八百八十年

午後三時

天津直隸總督衙門

伊藤大使相本伊東鄭李鴻章吳大澂續冒廷芳

羅豐祿談判筆記

大使閣下全權ノ憑證ヲ一覽ス此事ハ佳ク一ノ式法ニ過カレハ

本大臣ノ全權ヲ憑證モ亦貴閣ノ併スヘシ

李 謹シテ貴命ニ應ズヘシ 其文在ノ如シ

光緒十年正月二十日

上諭大學士直隸總督李鴻章著作為全權大臣與日
本使臣商議事務欽此

天津北京在リトキ總理衙門ニ書面ヲ以テ本大臣ニ與ル

外務省の畫押蓋印和衷定議、權ヲ以テリ、然レモ勅諭ノ文ニ絶テ是等事ヲ載セズ故、今閣下ト高廷立約ニ條件ノ異日、到リ貴政府ノ擯弁スルヲテ、總理衙門當カノ意、矛盾有ルニ非ヤ

李使突シテ曰ク其事今閣下、方寸ニ存ス、若シ本大臣、此ニ難固ヲ以テシ、本大臣ヲシテ止リ得ス、肯領セラル、得ルニ至ラシメラル、アラハ、我政府ノ擯弁スル所トナルモ、知ルニカラス、願ハ成ルハ、難ク本大臣、負セラレザラン

大使本大臣ハ何等約件ニモ、批准ヲ要ス、且テ結定スル、全權ヲ有、故、本大臣、陳述ス所及ヒ一切、行為、則チ我大

皇陛下ノ親ラセラル、ニ異ナルナシ

李本大臣ハ素ヨリ、訂約簽押ノ權ヲ有スト、雖モ閣下ト高廷立シタル事、我皇帝陛下ノ批准ヲ要スルモ、タル豫シ、閣下ニ告知スルハ、コラス

大使素ヨリ、一國ノ君主ニモ、恒ハ一身ニ批准ノ權ヲ保有スルハ、論ヲ待タサルナリ、然レモ君主ノ親ラ批准ヲ施ス、其事ヲ可否スルノ實カヨリモ、寧ロ正式ニ告テ、閣下ニ於テモ、承知アリタル、苟モ貴國全權ノ間、定商シタル、約件ヲ後キ政府、於テ擯弁スル如キハ、既ニ格式ノ區域、諭ヘ、其實、且、涉リ、其事ヲ可否スルモ、ト云ハサル、得ル

李洵傳諭、如シ本大臣閣下、二個、要點ヲ陳述セシ
 第一、苟モ一國、君主亡モ、果シ其頁、批准、権ヲ保有
 ストモ、我皇帝陛下モ亦之ヲ保有スルモ、之ヲ認メザラズ
 第二、閣下若シ大ナル困難ヲ提呈シ本大臣ヲ逼迫シテ批准リ
 拒メ、如キ約書、蓋印セズルハ、能ク其結約、切ラ全
 フルヘシ

大使事情果シ此ノ別ノ閣下、他日我皇帝ノ拒メセズ、如キ
 約書、蓋印セズ、テキヲ信ス閣下素ヲ權域ヲ詢ハズ自ラ能
 ク承諾スヘキヲ承諾セ則貴我大臣、閣下約シタルモ、ミラ他
 日之ヲ批准ヲ拒メセズ、テキヲ知セラルヘシ

三割一百零

秋野
伊出
忠

十一年十月二十日

地原伊出公の行

一 金九圓三ヶ

上野伊出中書

一 沙五ヶ

三ヶの歎三ヶ食子

一 五ヶ五ヶ

伊出能代伊出能代

一 四圓五ヶ

推事

一 三ヶ

伊出能代伊出能代

一 七ヶ

伊出能代伊出能代

一 七ヶ

伊出能代伊出能代

一 沙三ヶ

伊出能代伊出能代

一 五ヶ

伊出能代伊出能代

一 五ヶ

伊出能代伊出能代

一 五ヶ

伊出能代伊出能代

× 金九圓四ヶ

伊出能代伊出能代

二月十八日

越ノ指面三子所

山崎十二羽

二月十八日

二月十八日 家計 概観

一金

一屋

一住方
初月

一住方
二内住人姓名
三特設地代料金

九日

一
二
三
四
五

一三四八十次身

越ノ抜首千子河

山鳥十三羽時局一集

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

二十四年二月七日 家計 苑藏

一金

一屋三月七日

一 在方屋 小中 卯時 申時

二十四年

一 坊屋 卯時 申時 坊屋 申時

九日

一 坊屋 卯時 申時 坊屋 申時 坊屋 申時

二十四年 三月七日

十一

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

十一

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

宮内大官

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

十一

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

十一

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

三月十日

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

一 書之如書書時果也治之古矣 書之

五月二十一日

外務大臣の御返事
外務大臣の御返事
外務大臣の御返事

五月二十一日

外務大臣の御返事

外務大臣の御返事

外務大臣の御返事

二十九日

依願先達
吉木外務大臣
榎本
山田

外務大臣の御返事

外務大臣の御返事

三十日

外務大臣の御返事

外務大臣の御返事

外務大臣の御返事

外務大臣の御返事

中事紀多清海はしとて海島分
信向七よ道分遠去まへしとて

一 甲子書物初とてと人念初
其人多心初とて
面海留修即とて
且其初とて
明二子海とて

以上果道作後記
話

大山曰く小松の好き臆初女の華
族とて海の所居とありに

け下卯四月久光上京節大方保出
先記の記しとて東部ありとて
新行軍後とて海島兵庫同所也
家とてありとて後とて海とて
七州とてありとて海島ありとて
事とて名庫ありとて海島ありとて
其とて名庫ありとて海島ありとて

世人より為る所の如く
世に於ては亦不松自れ
如きもの如く初より
常刀に勝るべきは
懐くべき

品川清高ノ一筆勅書
内務大臣
拜命之日ノ只今迄親任
之任用見ると百多不遇
田中不三替名代
理波比ノ取品川ノ取命
吾々辭表
進言野州増取ノ列名
脱去世ノ
勢少難常ノ事自來
吾々勸回足持
連信品川代ニ出拜
向長知知事ノ其取
仕ノ品川代河成有
一ノ命ノ其取
心歌ノ障ノ事ノ
品川代ノ其取
務大臣ノ其取
一月ノ其取

或は子に辭承継せしむる不為理
のりしに御し親任に大或は御
し御方より承継し上を不傳承初め
伴し去方若由大臣も御料の好任を
所川の如く御承継ししむる御承継
は美敷く承継し世評も如く御承継

林野斗

二月六

出勤向をより山松常刀持号一乘の松方首相御
同人より大山西郷御傳へて吟味し直上黒田を以
て表向に中野秋津月御承継し与密話
華族戸籍民法撤觸しむる御承継文御承
内書

此二候又念御承継し内書

馬田の巻

一 概山に依りて時を常田に方石の塊に土常田より文身抄り仍

大 概 山 依 り 時 常 田 方 石 塊 土 常 田 文 身 抄 仍

一 概 山 依 り 時 常 田 方 石 塊 土 常 田 文 身 抄 仍

一 概 山 依 り 時 常 田 方 石 塊 土 常 田 文 身 抄 仍

一 概 山 依 り 時 常 田 方 石 塊 土 常 田 文 身 抄 仍

一 概 山 依 り 時 常 田 方 石 塊 土 常 田 文 身 抄 仍

天保二十六年

Handwritten red text at the top of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten text at the top left of the page.

Main body of handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Bottom section of handwritten text in a cursive script.

Small handwritten text at the top left of the page.

Handwritten text in a cursive script.

Main body of handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten text at the bottom of the page.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Bottom section of handwritten text in a cursive script.

Small handwritten text at the bottom left of the page.

廿三

一 函前占候 房より十考の御會の御可

停會

二十六日

一月廿三日 卯辰申

學

一 永如中差米之桑上橋邊より多長之新名取

平和礼致と起

時舟舟好修指申一 出申、薩七之申、其申

時分同記、所食より為り有知不方、際也

美あり、意解らんと、舟、際、成、此、の、合、康、成

秋、起、し、安、な、書、物、の、不、吉、...、と、あ、り、し、り、の、

傍、の、伊、東、**所**、の、歌、の、を、あ、り、し、り、の、柳、折、**相**

那、の、伊、東、の、安、な、書、物、の、不、吉、...、と、あ、り、し、り、の、

此物もあつてもあつても
あつても原元の御印
三つ年七つ年先生御印
事終り奉りて折角
了御印御成孔子金銀
一物も著し御成孔子金銀
うたあつてもあつても
心付く御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀

此御印御成孔子金銀

以上御成孔子金銀

本因御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀

御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀

御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀
御成孔子金銀

九山御成孔子金銀

大八島島嶼と云ふ是井と略す
 考其島嶼は新部一丸の如き其島嶼を以て
 甲島七洲と云ふ事あり
 一 馬島其島嶼は新部一丸の如き其島嶼を以て
 甲島七洲と云ふ事あり
 一 江島其島嶼は新部一丸の如き其島嶼を以て
 甲島七洲と云ふ事あり
 一 國府其島嶼は新部一丸の如き其島嶼を以て
 甲島七洲と云ふ事あり

目 明倫彙編 大島嶼の中海再考の時井と略す古傳に載る
 明倫彙編 大島嶼の中海再考の時井と略す古傳に載る
 耳 明倫彙編 大山嶼の中海再考の時井と略す古傳に載る
 湯を以て大島嶼と云ふ事あり
 木戸板垣等撰

日月日月日月日月日月日月日月

夜上奏、始末の由地知り、諸君の御力申

申上、日人カヤキ、怪力ヲヤ

山岡曰、シハ、リノ、ソ、モ、面、オ、カ、ル、ニ、症、モ、ナ、シ

仙 子 食

日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月

甲 大久保史之吉并里由成延中朝臣之信
乙 于高崎之橋上之古蹟子成展之志州也
丙 物種語一桓垣橋龍之子
丁 木園内記州之河於森也屋之古蹟也
戊 安成衣衣其勇之信

甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

○ 赤尾の昔を遺ひたり

黒田居候話

長岡川の河出継介の流成り也
 舟の運中おもしろき其竹
 淵の辺より石接しの地
 子孫傳へて遺ひたり
 昔曰くこれより林寺なり也
 寺に松切らりてその邊に
 今此地の山は乃ちりたり

○ 藤原院史

五郷の色守の巻の巻

維新の義士は、年々増加し、
廿二の年、仁幹海軍の旗を
掲げ、徳島に立寄り、その時
兄盛盛、その父を大久保の
藩下、唐平一、はははを
藩下、徳島に運物せしめん
と欲する、その時、徳島
も、長崎、朝命
と、徳島、徳島、徳島、徳島
徳島、徳島、徳島、徳島

今海日は、日活戦、我々常、利あり、之、一、二、三、

二、七、二、ハ、カ、ラ、ス

伊正曰ク

京都に於て、所々を遊ばせり、七月、英艦揚戦し、徳島に於て、
は、用ありし、からん、翌年、坂の進撃、逆徒、打ツル、とあり

上下手、拳銃、為、短銃、着、七、八、切、渠、
光棒、トナラン、け、交、注、意、ス、ベシ

○ 長策、の、載、り

其年三月十日
大子飛上臣國
西武源
書

陳公曰く今起者
其年三月十日
大子飛上臣國
西武源

其年三月十日
大子飛上臣國
西武源

其年三月十日
大子飛上臣國
西武源

鴻溝。我。何。漢。吳。馬。謝。見。媿。知。
聖。之。賞。印。誰。第。一。封。侯。第。一。漢。
蕭。何。
封。侯。第。一。漢。第。一。漢。

塔。澤。替。蹤。醒。主。憂。誰。

君。是。當。斗。却。成。候。

照。五。年。由。務。首。封。改。臨。國。之。海。記。
ま。

其。其。村。田。以。信。業。一。名。名。

切。仍。有。新。任。中。已。熱。意。其。今。
此。之。揮。出。之。久。出。

晴。の。市。方。之。之。之。之。
德。の。の。の。の。の。

洪武元年即
後漢山正年三年
義滿應安元年

二十四

三王
三王七

二百九十四年

八回
八帝

二百二十五年

明年號 洪武^三 建文^四 永樂^二 洪熙^一 宣德^十

正統^十 景泰^七 天順^八 成化^三 弘治^十 正德^十 嘉靖^四

隆慶^六 萬曆^七 泰昌^一 天啓^七 崇禎^十 弘光^一 隆武^一 永曆^三

壬午 順治明七

清康熙^六 雍正^三 乾隆^六 嘉慶^二 道光^三 咸豐^十

同治^十 光緒^八

漢土東方倭國起陸

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

齊

卷三

齊王嘗使使音傳假僑不肯任官任職如持節
游於

曾為大同書者。不負信陵君也。

公子無忌信陵君

大梁

使將軍部敢趙畏秦不進

魏

平原名
趙者成王

秦國新軍
此皆身中連末

平原君
新垣術胡丸

身曰秦者身連義而上有以之國也
得即肆然而公和通而為政於天下則連
有跡末海而亦身 若不忍為之民也
似將身共計不肖而其所謂存其所憎
憐而與共而後

秦

使曰起破趙長平之軍
四十四萬

又因將軍新垣術胡丸
魏公子無忌有者歸軍以收
趙擊秦軍秦軍遂引而去

平本居欲討晉連之辭懷平原君乃蓋而
以千金為身進弄者連矣日所憎貴於天
下之七者為人排意釋類解紛亂而無
敵也即有敵者連高賈之事也連初晉也
通辭去

大武十招

魏公子無忌

四十四

